

第1学年3組 社会科学習指導案

令和5年6月14日(水)第6時限

1 単元 原始・古代の日本と世界 ― 日本の成り立ちと倭の王権

2 単元について

(1) 単元の意義

原始・古代の日本において、人間は環境に応じて暮らしを変化させてきた。食物の確保の仕方或使用する道具は大きく変わり、より安定した暮らしのために食料の調理・保存ができるようになったり、性能のよい道具を求めて交易を行うようになったりした。特に旧石器時代から縄文・弥生時代にかけては、定住するようになったことや集団をつくって暮らし始めたという点において大きな変化を遂げている。手に入る食料が増えると人口も増え、集団はさらに大きくなっていく。集団をまとめるための長が現れ、支配者が生まれる。支配者の権力が強くなり、より強く国をまとめていくのは原始・古代から続く国づくりの系譜である。

また、日本列島の歴史だけでなく、世界各地の文明や朝鮮半島・中国との関わりを考えることは、世界の中での日本の立場を考えたり、日本が世界からどのような影響を受けていたのかを考えたりすることとつながる。日本と世界の関係が切っても切り離せないものであり、原始・古代の時代から多大に関与しており、様々なものがもたらされたことを理解するのは日本列島での暮らしや文化を理解するのに重要である。

(2) 系統的に見た位置

前単元である「人類の出現と文明のおこり」では、人類の進化の軌跡と四大文明について取り上げ、人類が道具や文字、宗教などを発明して、進化してきたことを学習し、国ができる仕組みや文化の成り立ちなどについて学んできた。

本単元では、日本ではどのように国ができていったのか、大陸から伝わってきた文化がどのように日本列島の国々に影響を及ぼしていったのかに目を向けさせ、日本の成り立ちについてそれぞれの時代の暮らしと出土した道具や資源の観点から考えることができるようにしていく。

(3) 単元と生徒との関係

私が今住んでいる近畿地方と比べて中部地方には古墳や史跡が少ない。名古屋市の中学生にとって旧石器・縄文・弥生・古墳時代の内容は身近な存在ではなく、関心を持っている生徒は少ないと考える。しかし、世界の文明については既に学習しており、小学校での学習も踏まえると基本的な知識はあるものと捉えられる。そのため、自分で考え、自分のもっている知識を用いて自分の言葉で表現できるよう、「なぜ」という発問を多くし、主体的に学ぶ意欲を高める。

3 目標

イラストや写真などの資料を基に、人々の暮らしについてどのような特徴があるかを捉えられるようにする。また、日本における中国や朝鮮半島の国々からの影響を多面的に考察し、どのような関わりをもっていたのかを捉え、それらによって日本列島の暮らしや文化がどのように変化したのかを捉えられるようにする。

4 評価規準

- 資料から食料を確保する方法や生活の様子などを読みとり、どのような暮らしをしていたのかの特徴を捉える。(知識・理解)
- ムラがまとまりクニになっていった理由や大和政権の大王が朝鮮半島の国々や中国と関わりを持っていた理由について根拠を示し、適切に表現している。(思考・判断・表現)
- 周りの生徒と協力して既習事項と関連づけたり、新しく理解したことを用いたりして自ら考えている。(主体的に学習に取り組む態度)

5 指導計画と評価計画 (3時間完了)

思…思考・判断・表現 知…知識・理解 主…主体的に学習に取り組む態度

指導計画		評価計画	
学習内容	時数	観点	評価規準と評価方法
○ 日本列島のあけぼの ・旧石器時代の暮らし ・縄文時代の始まり ・竪穴住居のムラ	1	主	資料から縄文時代の暮らしの特徴を読みとろうとしている。 【発言・プリント】
○ 楽浪の海中に倭人あり ・稲作の伝来 ・弥生時代の暮らし ・ムラからクニ(小国)へ ・女王の国	1	知	資料から稲作の道具や稲の保存・調理方法などを読み取り、ムラがクニになっていったことや支配者が中国と関わりをもっていたことをとらえる。 【発言・プリント】
○ 東アジアの中の大和政権 ・古墳の出現 ・大和政権の成立と豪族 ・朝鮮半島・中国との交流 ・渡来人の伝えた文化	1 本時	知	日本には大きな勢力をもつ大和政権があったことをとらえ、朝鮮半島や中国と関わりを持っていた理由を考えている。 【発言・プリント】

6 本時の指導

(1) 目標

古墳時代の日本では大きな勢力をもつ大和政権ができたことを捉え、大和政権の大王や有力豪族が朝鮮半島の国々や中国との関わりを持っていた理由を考えられる。

(2) 準備

教科書、学習プリント、デジタル教科書、タブレット、資料集

(3) 関連

「エジプトはナイルの賜物」(1年)、「大帝国の出現と交流」(1年)

(4) 指導過程

時間配分	学習活動	指導上の留意点
5分	1 豪族の墓である古墳が日本各地にできるようになったことをつかみ、豪族をまとめる大和政権が大王を中心としてつくられたことを捉える。	○ 軽く弥生時代の内容を口頭で確認し、ムラからクニへと集団が大きくなっていったことを復習させる。
(2)	(1) 日本の各地に支配者がいたことが何からわかるか考える。	○ 「支配者はどのような建造物を造ったのだろうか?」と問いかけを行い、一度自分で考えさせる。 ○ 古墳が豪族の墓であり、各地に残っていることに気づかせる。
(3)	(2) 近畿の豪族たちが大王を立て、大和政権をつくったことを確認する。	○ 「おおきみ」、「やまと」政権の読み方に注意させる。 ○ 近畿地方の豪族が連合してできた政権であることを強調し、次の学習内容につなげさせる。
20分	2 江田船山古墳(熊本県)の出土品からどのような人の古墳なのかを4人班で考える。 ①身分②勢力の大きさ③大和政権との関係	○ 古墳やその出土品から被葬者の特徴が読み取れることに気づかせる。 ○ 文字資料がないため、誰の古墳であるかは定かではないことを伝え、自分たちなりの考えを書かせる。
(8)	(1) 班で相談して、自分たちの考えをプリントに記入する。	○ 欠席などで4人組が作れない場合には座席を移ったり、3人組にしたりして班を組ませる。 ○ 話し合いが進んでいない班に

(9)	(2) 話し合った内容を発表し、意見交換をする。	<p>は、一人ずつ問いかけて話し合いを進ませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発表する生徒を指名する。 ○ 他の生徒の意見で良いと思ったものをメモさせる。 ○ 出てきた意見に対して、同じか似ているか、そうは思わなかったか、その理由は何かを生徒全員に問いかけ、考えさせる。
(3)	(3) 最終的な自分の意見をまとめ、プリントに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えを根拠を持って書かせる。

【予想される生徒の考え】

身分：偉い人。権力の強い人。大王。九州の豪族。
 勢力の大きさ：大きい。九州全部。九州から関東まで。
 大和政権との関係：深い。強い。あまり関係がない。
 〈理由〉
 熊本にある。出土品が多い。近畿から遠い。「ワカタケル大王」と書いてある鉄刀が出土している。古墳がある時点で力が強い。

10分	<p>3 古墳の大きさ・分布より大和政権が大きな勢力であり、地方豪族が大和政権と強く結び付いていたことをつかむ。</p> <p>(3) (1) 大王の墓とされている大仙古墳の大きさから大和政権の勢力の大きさを捉える。</p> <p>(3) (2) 古墳の分布図から大和政権の勢力が関東から九州まで及んでいたことをつかむ。</p> <p>(4) (3) 地方豪族が大和政権と結び付いた理由について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国内での大和政権の影響力を確かめさせる。 ○ 古墳の大きさと勢力の大きさを関連づけて考えさせる。 ○ 教科書の写真を見て、住宅やピラミッドと比較して大きさを確認させる。 ○ 古墳は大和政権に認められた豪族のみが造れたことを伝え、古墳の分布が勢力範囲を表すことをつかみやすくさせる。 ○ 大和政権と結び付くことで鉄と進んだ技術が手に入ったことを伝え、確認させる。
-----	---	--

13分	<p>4 朝鮮半島の国々や中国との関わりについて捉える。</p> <p>(5) (1) 朝鮮半島の国々と大和政権の関係を考える。</p> <p>(5) (2) 中国と大和政権の関係を考える。</p> <p>(3) (3) 渡来人が日本に伝えたものをつかむ。</p>	<p>○ 大和政権が他の国とつながりがあったことを意識させる。</p> <p>○ 朝鮮半島の当時の様子を確認させる。</p> <p>○ 当時の朝鮮半島情勢に関連づけて、中国に使いを送る利点を考えさせる。</p> <p>○ イメージしやすいように須恵器は写真でも確かめさせる。</p>
<p>学習課題：大和政権の勢力の大きさや範囲をとらえ、国内外とのつながりについて考えよう。</p>		

評価事項

大和政権は日本列島内では地方豪族と強く結びつき、国外では朝鮮半島の国々や中国と関係をもっていたことを理解する。

【プリントの記述】(知識・理解)

□…大和政権が大きな勢力を持ち、各地の豪族と強く結び付いていたことと朝鮮半島と深く関わっていたことを捉えさせる。

☆…大和政権が各地の豪族を支配し、日本列島の国々をまとめていったことをつかみ、中国や朝鮮半島との関わりの中で倭国の地位を高め、優位な立場に立とうとしていたことについて考えさせる。

2分	<p>5 学習課題を確認し、授業のまとめを聞く。</p>	<p>○ 〈今回のまとめ〉については、自主学习とし、学習プリントや教科書を見ながら記述するよう伝える。</p>
----	------------------------------	---

(5) 板書計画

1 古墳時代

・古墳…豪族の墓

墳輪

・大王

大和政権

- ・古墳の大きさは大和政権の勢力の大きさ
 - ・古墳の分布は大和政権の勢力の及んでいた範囲
- ⇒豪族自身の権力を強めるため

○どのような人の古墳？

身分：例) 偉い。権力が強い。大王。九州の豪族。

勢力：例) 強い。九州全部。関東から九州まで。

関係：例) 強い。深い。臣下。仲良し。

2 朝鮮半島・中国との関わり

・大量の鉄 →武器・工具

⇒鉄や進んだ技術を得るため。

・倭の王としての地位を高めた

⇒朝鮮半島の国々との関係を有利なものとするため。

・渡来人

須恵器

7 高評

- ・ 話すときのテンポが一定でどこが重要なかわかりづらいので、抑揚をつけたり声の大きさを変えたりして重要なところを強調したり、聞いて欲しいところを示したりすると良い。
- ・ 一番後ろから見て見やすい文字が黒板に書けると良い。
- ・ 豆知識のようなものも一度クイズのようにして考えさせると生徒が楽しく学習できるようになる。
- ・ 答えが合っているのか間違っているのかははっきりと示すこと。
- ・ 生徒から出た意見を正しい答えに誘導したり、次の意見につなげたりすると生徒の意見を汲みながら授業を進めるようにすると良い。
- ・ 班で作業するため、机の合わせ方を工夫していたのは良い。
- ・ 静かにさせるところは静かにさせて、盛り上がるころは一緒に盛り上がって、メリハリがあったのが良い。
- ・ 授業とは関係のない話をしているときや何度も言っても聞かないなどのとき以外は静かになるのを少し待つと良い。
- ・ 後半が駆け足気味であり、生徒たちに考えさせる間があまりなかった。
- ・ 後半は早口気味になってしまっていたので、焦ってもゆっくり話せるよう意識した方が良い。
- ・ 時間を示して活動の指示を出していたのが良い。
- ・ 声が後ろまではっきりと聞こえていて良い。
- ・ 自分に合うやり方で授業を行うと子どもにも伝わりやすい。
- ・ 盛り上がったときの声かけをいくつか考えておくと良い。
- ・ すぐに取り組めるということは生徒に指示が伝わっているということで良い。

8 反省

指示を具体的に行い、声のトーンを明るくし、活動をしやすい場をつくることができたと思う。落ち着かせようとして静かにしてくださいの言い方がきつくなってしまったのが反省である。状況に応じて注意の仕方に気を配る必要があるとわかった。班活動の机間巡視を行い、活動が止まっていそうなところをフォローできたと思う。生徒たちから色々な意見が出てきたのが何よりよかった。普段はあまり発表をしない生徒にも班での意見として発表を行ってもらえたのもよかった。

時間内に終わらせようと焦り、考えて欲しいところに十分に時間を取ることができなかった。生徒たちが書く時間もあまり待てなかった。自分から提示する情報は簡潔に伝え、生徒たちが考える時間を少しでも長く設けられるようにすると良いと考える。また、一人で考えるのは難しい生徒でも周りと相談できるように話し合っても良い時間を作りたい。

問いかけを投げかけるときには、何を聞いているのかを明確にしようと努め、概ね生徒たちにも何を聞いているのか伝わっていたと考える。二択のときも先に選択肢を示し、手を挙げるよう伝えられたので、ほとんどの生徒が参加してくれていたのがよかった。明確でわかりやすい指示を出すことは続けていきたいと考える。

生徒たちが楽しんで学習できるよう考え、準備した内容でも生徒たちへの指示の仕方や問いかけの仕方を楽しめるものとなるかそうでないかの効果が変わることがとてもよくわかった。どの生徒も学習に参加しやすいように場を整えて、自身の声の高さや話し方も意識して、雰囲気をつくっていくことでより良い授業を行っていくことができるとわかり、普段の生徒との関係作りや授業の環境作りも大切にしていきたいと考える。

第1学年 3組 社会科学習指導案（略案）

令和5年6月8日（木） 第6時限

指導者

1 単元 原始・古代の日本と世界

2 指導計画（15時間完了）

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| (1) グレートジャーニー・・・1時間 | (2) エジプトはナイルの賜物・・・1時間 |
| (3) 大帝国の出現と交流・・・1時間 | (4) すべての道はローマに通ず・・・1時間 |
| (5) 宗教の誕生・・・1時間 | (6) 日本列島のあけぼの・・・1時間（本時） |
| (7) 楽浪の海中に倭人あり・・・1時間 | (8) 東アジアの中の大和政権・・・1時間 |
| (9) 広がる国際交流・・・1時間 | (10) あつく三宝を敬え・・・1時間 |
| (11) 律令国家への道・・・1時間 | (12) 木簡と計帳は語る・・・1時間 |
| (13) シルクロードにつながる道・・・1時間 | |
| (14) 望月の欠けたることもなしと思えば・・・1時間 | |
| (15) 「以呂波」から「いろは」へ・・・1時間 | |

3 本時の指導

(1) 目標

縄文時代の人々がどのような暮らしをしていたかを食べ物や道具の観点から知り、食料をより多く得るための知恵を理解する。

(2) 準備 授業プリント

(3) 関連 「グレートジャーニー」（1年生）

(4) 指導過程

時間	学習活動	指導上の留意点
3分	1 旧石器時代の暮らしを復習する。 (1) 日本列島が大陸と陸続きであったことをつかむ。 (2) 人々が移動し打製石器を用いて食料を得ていたことを捉える。	○ 既に習っているので生徒に問いかけを行い復習させる。 ○ 大型動物が姿を消したあと小型動物が増えたことを復習させる。
30分	2 縄文時代の食料確保の方法をつかむ。 (1) ペアワークをして絵から食べ物と道具を読み取る。 (2) ペアワークをして絵からその他の特徴を読み取る。	○ 食料を得たあとに加工・保存が行われていることに気づかせる。 ○ 人々が定住するようになったことに目を向けさせる。
17分	3 人々が安定してより多くの食料を得るための生活をしていたことを捉える。	○ 移動しなくても一年中食料を手に入れるためにどのような工夫をしていたのかを考えさせる。

	<p>① 土器が使われるようになったのはなぜか考えよう。</p> <p>② 交易で黒曜石やサヌカイトを手に入れたのはなぜか考えよう。</p> <p>③ 集団（ムラ）で生活しているのはなぜか考えよう。</p>	<p>○ 2の学習活動を振りかえさせ、考えさせる。</p> <p>○ 食料を安定してより多く得るための工夫であることに気づかせる。</p>
<p>学習課題：縄文時代の人々がどのような暮らしをしていたのか考えよう。</p>		
<p>評価事項</p> <p>縄文時代の人々の暮らしについて関心をもち、どのような暮らしをしていたのかの特徴を捉えている。</p> <p>【プリントの記述】（知識・理解）（主体的に学習に取り組む態度）</p> <p>□・・・縄文時代の人々が一年中食べ物を食べられるように食料を確保していたことについて黒板のキーワードを元に捉えさせる。</p> <p>☆・・・人々が移動しながら狩猟・漁撈・採集をしていた旧石器時代とは違い、定住し、食料を確保して暮らしていたことをつかませる。</p>		
		<p>○次時から日本が弥生時代に入り、稲作が始まり、集団が大きくなっていくことを学習していくと伝える。</p>

4 高評

- ・ 食べ物を聞いているのか、道具を聞いているのかを明確にしてから挙手を募ると良い。
- ・ 考えさせる問いかけは、生徒たち自身で考えられるよう、周りとは相談させたり、少し間を取ったりすると良い。
- ・ 若者言葉を使わずに、丁寧な言葉遣いを心掛けること。
- ・ 黒板に向かって話さず、話すときは生徒たちの方を向いて反応を見ること。
- ・ 声はよく通っている。

5 反省

生徒たちからの意見を募る際に、何を聞いているのかがわかりにくくなってしまった。わかりやすくはっきりとした指示や問いかけができるよう意識していきたい。板書しながら話してしまうことが度々あったので、生徒たちの方を見て話すようにする。反応を見てその都度対応を変えていく必要があるとわかった。生徒の解答が少し違っていても正しい答えに誘導したり、つなげたりできるようにきちんとフォローをしていきたい。

第1学年 3組 社会科学習指導案（略案）

令和5年6月9日（金） 第3時限

指導者

1 単元 原始・古代の日本と世界

2 指導計画（15時間完了）

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| (1) グレートジャーニー…1時間 | (2) エジプトはナイルの賜物…1時間 |
| (3) 大帝国の出現と交流…1時間 | (4) すべての道はローマに通ず…1時間 |
| (5) 宗教の誕生…1時間 | (6) 日本列島のあけぼの…1時間 |
| (7) 楽浪の海中に倭人あり…1時間(本時) | (8) 東アジアの中の大和政権…1時間 |
| (9) 広がる国際交流…1時間 | (10) あつく三宝を敬え…1時間 |
| (11) 律令国家への道…1時間 | (12) 木簡と計帳は語る…1時間 |
| (13) シルクロードにつながる道…1時間 | |
| (14) 望月の欠けたることもなしと思えば…1時間 | |
| (15) 「以呂波」から「いろは」へ…1時間 | |

3 本時の指導

(1) 目標

弥生時代の人々がどのような暮らしをしていたかを稲作と集団の大きさから知り、縄文時代から人々の食べ物や生活の変化を理解する。

(2) 準備 授業プリント

(3) 関連 「大帝国の出現と交流」（1年生）

(4) 指導過程

時間分	学習活動	指導上の留意点
15分	<p>1 中国文明の話を復習しながら、日本と大陸とのつながりをつかむ。</p> <p>(1) 人口が増加し、国々の争いが激しくなったことを捉える。</p> <p>(2) 朝鮮半島から渡ってきた人々からの伝わってきた大陸の文化を一通りつかむ。</p>	<p>○ 口頭のみで生徒に問いかけを行い、復習させる。</p> <p>○ 先に何が大陸から伝わってきたのかを伝えて、授業内容を聞きやすくさせる。</p>
10分	<p>2 弥生時代のムラの暮らしについて特徴を捉える。</p> <p>(1) ペアワークで稲作をするために必要な事項を考え、人々の集団や道具の特徴をつかむ。</p>	<p>○ 道具や保存・調理に必要なものが登場したことに気づかせる。</p>

<p>25分</p>	<p>3 集団が大きくなったことに気づかせ、どのようにまとまっていったのかをつかむ。</p> <p>(1) 集団が大きくなったことに注目させ、クニがどのようにできていったのかを考え、表現する。</p> <p>(2) 日本に邪馬台国という国ができ、卑弥呼という女王が治めていたことをつかむ。</p> <div data-bbox="352 750 847 969" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 中国に朝貢したのはなぜか考えよう。</p> <p>② 卑弥呼が邪馬台国の女王となったのはなぜか考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食料生産の増加が人口増加につながっていることに気づかせる。 ○ 集団が大きくなっていった理由を争いの面から考えさせる。 ○ クニができたことと関連して、邪馬台国ができたことを伝える。 ○ 中国との関わりをもつことがどのように日本国内の国々に作用したのかを考えさせる。 ○ 卑弥呼が女王となった理由を国の状況を示し、考えさせる。
<p>学習課題：弥生時代の人々の暮らしが縄文時代からどのように変化したのか考えよう。</p>		
<div data-bbox="256 1227 379 1272" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>評価事項</p> </div> <p>弥生時代の人々の暮らしについて関心をもち、稲作が広まってからの日本社会では、ムラがクニとなりまとまっていったことを理解している。</p> <p style="text-align: center;">【プリントの記述】(知識・理解)(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>□…人々が弥生時代になってから稲作を行いだし、それによって集団が大きくなり、問題も起こるようになったことをつかませる。</p> <p>☆…弥生時代の人々が他国との関わりの中で争いに勝つなどしてクニの力を高めていたり、支配者の権力を朝貢などによって強くしていきたりしていたことについてとらえさせる。</p>		
		<p>○次時から日本が古墳時代に入り、大きな権力をもつ集団が現われたことと朝鮮半島と中国との関わりについて考えていくと伝える。</p>

4 高評

- ・ 二択で質問をするときには、先に選択肢を提示して、生徒が手を挙げやすいようにすると良い。
- ・ 絵から読み取れることもあるので、先に教科書を開かせるとわからない生徒も参加しやすくなる。
- ・ 相談しやすい机の形を作ることで、ペア活動が円滑に進む。
- ・ 難しい漢字を大きめに書いたのは良い。
- ・ 文章の穴埋めで生徒たちに考えさせたあとに模範解答を示すときは、「答えは」ではなく、「今言ってくれたことをまとめると」の方が生徒たちの考えを反映できているように感じさせて良い。
- ・ チャイムが鳴ってしまったら、手を止めて聞いてねと呼びかけ、生徒が指示を聞けるようにすると良い。

5 反省

机を動かさずにペアワークを行うよう指示したため、一緒に考えられていないところもあったため、学習活動をどう行って欲しいかによって場を整える必要があると感じた。生徒たちに考えさせた意見を拾って書いていくところで特定の生徒ばかりが手を挙げることになってしまったので、もっと色々な意見を出し合えるよう、相談する時間を取ったり、隣同士で話し合いやすい形を作ったり、手が挙がるような発問をしたり、問いかけに工夫をしたりして多くの生徒が参加できるような授業を行いたいと考える。今から何をどのくらいの時間するのかの指示が曖昧になり、生徒たちも取り組みにくかったと考えるため、授業に集中して取り組めるように明確でわかりやすい指示を出し、学習活動を行いやすくしたい。